

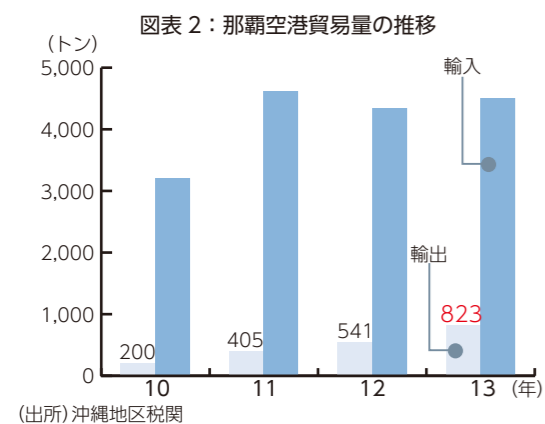
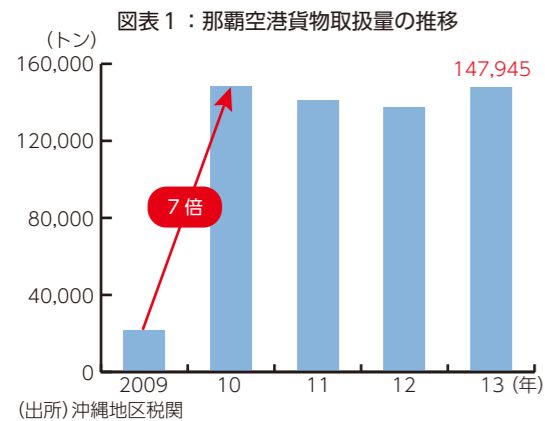
沖縄貨物ハブ事業を振り返る

2010年に那覇空港を拠点としたANA沖縄貨物ハブ（以下、貨物ハブ）の運用が開始され、3年余り。那覇空港の国際貨物取扱量は一時、国内第3位となるまでに成長した。アジア方面への県産品輸出量の増大と認知度の拡大にも一定の成果がでてきた。今回は、貨物ハブ就航地における県産品輸出データやヒアリング調査結果等から、輸出量を一層増加させるのに必要となる事柄について検証してみたい。

輸出量は着実に増加している

貨物ハブの運用が開始された翌年2010年の貨物取扱量は、前年に比べ約7倍に急増した（図表1）。2013年の貨物取扱量増加の要因はANAの貨物機材の大型化や中部空港への新規路線就航、ヤマト運輸の国際クール宅急便開始などの影響が大きいようだ。

貿易量の推移をみると、2013年の輸出量は



2010年に比べ4倍以上に増加しており、着実に増加している（図表2）。

沖縄県の積極的な取り組み

貨物ハブを利用した県産品の海外展開がなされている。沖縄県や県内事業者は海外で開催される物産展や商談会開催などに積極的に参加しているようだ。図表3は、2013年度に沖縄県や県内企業が参加したアジアにおける主なイベントの一覧である。食品に関するイベントが多いのが特徴だ。

香港と台湾におけるイベント活動はほぼ周年化している。中国では2011年以降、領土問題等でイベント参加が難しくなっていたが、2013年の後半からは、上海でのイベント活動にも参加できるようになってきた。継続的な取り組みが、県産品の認知度を高める効果的で重要なプロモーション活動となるため、今後も積極的に行っていく必要がある。

また、沖縄県は独自の取り組みとして、ANAの貨物ハブ事業を利用したコンテナ借上げ事業を実施している。この事業は、県産品を貨物ハブ就航地に輸出する際に、輸送費用の一部を県が負担するものである。しかし、貨物量の最低重量制限などがあり、事業者からは条件緩和の声もある。

次に、貨物ハブ就航地ごと輸出動向について見ていきたい。図表5に5つの各貨物ハブ就航地に対する輸出金額上位3位までの品目をまとめてみた。

2013年度 図表3：沖縄県が参加した各地の主なイベント

月	香港	台湾	中国	韓国	バンコク
6月		FOOD TAIPEI2013 台北阪急・台南三越物産展	2013天然及營養保健品中国店（上海）	特になし	UFJ銀行バンコク商談会
7月	香港ビール・ミュージックフェスタ	高雄大立百貨物産展 Bio Taiwan 2013	銀聯商城日本館にてプロモーション（上海）		
8月	香港 FoodExpo	高雄漢神巨蛋購物中心沖繩物産フェア 大榮購物中心沖繩物産フェア 台湾コストコ商談会			
9月	香港 SOGO 沖繩フェア		LuxProperty2013 上海 第1回交通銀行社内展示会（上海） 中国世界ブランド輸入博覧会（広州）		
10月	香港 AEON 日本フェア	台中三越中港店沖繩フェア	大連日中貿易投資展示商談会（上海・大連） 塩城国際環境保護博覧会（上海）		
11月		台湾経済特区沖繩セミナー＆商談会 新生三越・高雄三越左営店沖繩物産展	中国国際保健博覧会（広州）		
12月					
1月	香港日航ホテル試飲商談会	世貿年賀大展			
2月		BtoB 商談会			

(出所) 財務省貿易統計をもとに弊社にて作成

【香港】

- 1人あたりGDP36,667ドル（2012年）
- 沖縄からの輸出総額は29億円（2011年）
- 輸出総額の4割程度が食品関連
- 沖縄県産豚肉のほぼ100%が香港向け

香港向け食材の中で、輸出金額が一番多いのがなまこだ。なまこの輸出は2012年から始まったばかりだが、香港向け輸出額ではトップ。2013年の空輸による輸出額は2012年比で約3倍。なまこは香港を経由して中国本土に輸出されるケースも多い。中国産なまこも高級食材であるが、日本産はそれ以上の価値があるようだ。

2位の豚肉（冷凍）は、貨物ハブの運用開始と、

県の事業により整備された香港の流通拠点（冷凍・冷蔵施設）を活用した輸出が2013年度から可能になったことが大きな要因。3位のビールは、毎年確実に増加しており、2013年の輸出額

図表4：香港向けの主な輸出品目 (千円)

品目詳細	2009	10	11	12	13
なまこ	0	0	0	175,248	191,809
麦芽エキス並びに穀粉	0	0	23,477	86,994	91,714
ビール	873	2,203	16,050	28,566	36,151
甘しや糖、てん菜糖	0	0	0	10,697	12,007
なまこ関連	0	0	0	35,429	20,557
黒糖	0	340	8,274	4,266	3,392
なまこ	0	0	0	87,118	241,500
豚肉	2,318	8,392	14,593	31,085	34,089
牛肉	0	2,275	0	1,839	31,322

(出所) 財務省貿易統計をもとに弊社にて作成

2013年 空輸 図表5：ANA 貨物ハブ就航地向け輸出金額3位までの品目 (千円)

順位	香港		台湾		中国		韓国		タイ	
	空港	金額	空港	金額	空港	金額	空港	金額	空港	金額
1位	なまこ	241,500	乾燥野菜	11,702	軟体動物（冷凍いか）	44,800	動物性又は植物性の油脂類	30,366	野菜類	1,462
2位	豚肉（冷凍）	34,089	海藻類	3,831	水類	5,778	水類	17,570	-	-
3位	調整食品	34,083	魚（冷凍）	581	海藻類	4,974	チューインガム	532	-	-

2013年 船舶 図表5：ANA 貨物ハブ就航地向け輸出金額3位までの品目 (千円)

順位	香港		台湾		中国		韓国		タイ	
	空港	金額	空港	金額	空港	金額	空港	金額	空港	金額
1位	なまこ	191,809	動物性又は植物性の油脂類	35,343	調整食品	3,416	調整食品	2,456	軟体動物（冷凍いか）	45,336
2位	麦芽エキス・穀粉（育児食料）	91,714	海藻類	23,017	紅茶及び部分的に発酵した茶	794	砂糖菓子	610	びんながまぐろ	13,010
3位	ビール	36,151	軟体動物（冷凍いか）	9,127	ベーカリー製品・オブラード等	500	植物性の液汁及びエキス	580	-	-

(出所) 財務省貿易統計をもとに弊社にて作成

は2009年に比べ、40倍以上に増加。その他、黒糖は2011年の820万円あまりから、2013年は340万円程度にまで減少している。2012年に沖縄を襲った台風の影響で、サトウキビの不作状態が続いていることが大きな要因だ。

【台湾】

- 1人あたりGDP 20,328ドル (2012年)
- 沖縄からの輸出総額は22億円 (2011年)
- 現在日本から牛肉は輸出できない
- ゴーヤー茶の原料輸出が多い

図表6：台湾向けの主な輸出品目 (千円)

品目詳細	2009	10	11	12	13
動物性又は植物性の油脂類	0	19,583	19,339	22,428	35,343
海藻類	4,899	11,004	8,219	22,416	23,017
軟体動物(冷凍イカ)	0	0	1,500	3,869	9,127
乾燥野菜	29,709	19,275	399	2,717	1,526
乾燥野菜	3,976	0	5,138	8,620	11,702
海藻類	0	700	2,219	0	3831

(出所)財務省貿易統計をもとに弊社にて作成

台湾では、分解茶と呼ばれる沖縄産ゴーヤーを原料とした清涼飲料水が販売されている。1位の乾燥野菜の中には、分解茶の原料となる乾燥させたゴーヤーが含まれている。2011年から輸送手段が船便から空輸へと移行している(図表6)。生産者によると、発注ベースで輸出しているため、リードタイムの短さが重要となる。そのため、徐々に空輸に移行しているようだ。2位の海藻類は、もずくと想定される。2012年、県内商社が台湾の国際食品展に出展したのがきっかけで、現地での認知度が一気に広まった。特にホテルやレストラン向けに需要が増加している。出展した商社により、「長寿藻」と現地の健康志向に合わせた商標が申請され、健康食品として今後も輸出拡大が期待できそうだ。

【中国(上海)】

- 1人あたりGDP 85,000元 (2012年)
- 通関に時間がかかるため、生鮮品輸出困難
- 日本向け食材の材料として県産イカを輸入
- 政情が急変するリスクがある

中国市場は、2011年に発生した領土問題の影響がようやく落ち着きを見せた段階だ。ほとんどの品目の輸出が2013年から動き出しているのがわかる。貨物ハブを活用できる付加価値の高いも

図表7：中国向けの主な輸出品目 (千円)

品目詳細	2009	10	11	12	13
軟体動物(冷凍イカ)	0	0	0	94,949	44,800
海藻類	0	0	0	0	4,974
泡盛(焼酎)	495	0	0	0	3,471
水(砂糖・他の甘味料等を加えたもの)	0	1,285	1,571	7,729	3,282
水(鉱水及び炭酸水以外)	0	0	0	0	2,496
調整食品(たんぱく質濃縮物)	0	0	0	1,451	3,416
紅茶及び部分的に発酵した茶	0	0	0	0	794
種・食用以外の植物など	0	0	0	0	225

(出所)財務省貿易統計をもとに弊社にて作成

のが市場にでるまでは、まだ時間がかかりそうだ。

一般的に通関に時間がかかるのが中国市場の特徴である。そのため、鮮度を保つのがむずかしい生鮮食品の輸出は非常に困難な状況。食に関する品目の場合、最低6カ月以上の賞味期限が必要となり、輸出できる品目が限られてしまう。その様な状況下で、冷凍イカの需要が比較的高い。中国では、日本向け食材の材料として冷凍イカを輸入しているケースが多いようだ。

【韓国】

- 1人あたりGDP 23,113ドル (2012年)
- 沖縄からの輸出総額は21億円 (2011年)
- 肉・魚介類に対する関税は10～30%程度
- 非関税障壁が高い

図表8：韓国向けの主な輸出品目 (千円)

品目詳細	2009	10	11	12	13
水(砂糖・他の甘味料等を加えたもの)	79,692	44,906	36,025	31,041	30,366
動物性又は植物性の油脂類	0	0	20,708	17,220	17,570
チューインガム	0	0	0	0	532
黒糖	288	4,342	3,049	0	215
泡盛(焼酎)	0	0	0	1,611	0
調整食品	2,478	6,104	0	0	2,456
砂糖菓子	0	0	0	210	610
植物性の液汁及びエキス	0	0	2,963	279	580
泡盛(焼酎)	0	0	0	0	343

(出所)財務省貿易統計をもとに弊社にて作成

韓国は、他の貨物ハブ就航地と比べ関税が高いのが特徴。非関税障壁も高く、販売価格が高額となるため、県産品の普及にはある程度の時間がかかりそうだ。黒糖や泡盛がわずかずつではあるが、輸出されるようになってきた。泡盛については、2012年にジェットロ主導による泡盛を含めた

國酒(日本酒や焼酎など)のプロモーション活動が実施された。韓国のバイヤーにも泡盛の品質の良さは受け入れられたようだが、関税及び非関税障壁が高いため、販路開拓が課題のようだ。

【タイ】

- 1人あたりGDP 5,678ドル (2012年)
- 沖縄からの輸出総額は7億円 (2011年)
- 肉・魚介類に対する関税は30～50%程度
- 非関税障壁が高い

図表9：タイ向けの主な輸出品目 (千円)

品目詳細	2009	10	11	12	13
さけ	2,945	0	0	0	0
シュリンプ・プローン	4,975	0	0	0	0
かんきつ類の果実のジュース	0	0	0	0	0
野菜類	野菜類	0	0	3,565	1,625
りんご	0	0	280	955	284
柿	0	0	0	1,233	0
調整食品	0	0	238	0	0

(出所)財務省貿易統計をもとに弊社にて作成

タイも韓国同様、関税率および非関税障壁が高く、県産品を輸出しにくい環境だ。しかし、他の貨物ハブ就航地に比べ、国内における中間層および富裕層の増加率が高いため、今後有望市場に成長することが期待される。

空輸による輸出品目の野菜類には、県産のしめじ類が含まれている。りんごや柿などは本土産のものが沖縄経由で輸出されたものと思われる。

現地バイヤー・小売店から見た県産品の現状

昨年、香港と台湾の県産品を扱うバイヤーや小売店と、県産品の需要および販路拡大に対する意見交換を行った(図表10)。

【香港における県産品の現状】

商品力はあるが競争力が弱い、品質・量がそろわない、県産品は管理コストが高い、などの意見

図表10：香港・台湾現地バイヤー等ヒアリング結果

	バイヤーA	小売店A	バイヤーB
香港	<p>黒糖は自然食品であることや、使い方の提案をするなどで売り出した。6年前のこと。</p> <p>沖縄のイメージもあわせて売り出したことが、定着したきっかけ。</p> <p>商品力はあるが、競争力が低い(生産量、マーケティング力等)。良い物を売れば売れる、はだめ。</p>	<p>売れるものの共通点は管理コストがかからないこと。県産品は管理コスト高く、収益性低い。価格が中途半端である。</p> <p>沖繩産紅イモも売れるが、品質が揃わない、量が少ない。</p> <p>管理コストが高い。単価が高いものがない。菓子などは薄利多売。</p>	<p>デメリットは、価格が高い。日本の他の地域よりも高い。パッケージを日本本土で作成しているものもあり、コスト高の要因。</p> <p>黒糖は中国産の10倍高い。中国産の品質も向上してきており、県産品の優位性がなくなってきた。高すぎるため購入しにくい。</p> <p>オリオンビールは妻などの原料は外国産でも沖繩の水を用いている。そこに香港人を見出す。</p>
台湾	<p>行政機関A</p>	<p>バイヤーA</p>	<p>バイヤーB</p>
	<p>ビールは安定供給できる唯一の県産品。販路を増やせば増やすだけ販売量を拡大できる。</p> <p>黒糖そのものの販売は難しいが、黒糖を使った製品などは、客も興味を持つ。</p> <p>ビール以外の県産品は、安定供給が課題。</p>	<p>もずくの販売を促進していきたいが、知名度が少なく、使用するにも塩づけのため洗う手間がかかる。</p> <p>黒糖以外は知名度がない。</p> <p>ウコンは東南アジア産と競合する。</p>	<p>黒糖を扱い始めて17年たつが、生産量がまだまだ不安定。扱っているのは黒糖本舗垣乃花の黒糖。</p> <p>沖繩と台湾の物産は90%以上が共通のもの。沖繩は日本で一番売りにくい。</p> <p>もずくは定番化しつつあるが、絶対量が少ない。</p>